

運 營

1. 技 術 部

(1) クロッピングシステム部門

平成15年度の担当圃場面積は136.0a、作付面積は春作106.8a（露地93.5a、ビニールハウス7.4a、汎用温室5.9a）、秋作92.1a（露地82.0a、ビニールハウス6.1a、汎用温室4.0a）で総作付面積は198.9a、作付率は146%であった。

土壌改良についてはカボチャ間作エンバクの作付を取り入れた。また八浜農場の協力を得て籾殻の投与も継続して行った。緑道公園の協力を得て冬季に落ち葉の散布も行った。

第1表、第2表に2003年度クロッピングシステム作物別耕種概要を示した。

カンショはイモの外観が良好で収量も多かった。土づくりの一助として落ち葉の投入など有機物補給を行っていることが好結果をもたらしたものと推察している。また今年は、温度を15度に保った貯蔵庫内で貯蔵したため、腐敗は少なかった。芋掘りは例年より1000株程度減少した。

エダマメは、防鳥網の老朽化でハトがネット内に入り込み、区によっては半分以上が食害を受けた。今年も販売量と収穫量の不適合が生じ、露地の一部の区で収穫適期を逃し廃棄処分となった。

カボチャは、「赤ずきん」の発芽率が悪かったため4月24日に追播した。6月下旬頃にウドンコ病（「えびす」「赤ずきん」「利休」）、褐斑細菌病（「はやと」）が発生した。全体として生育が悪く、着果数が多かった「はやと」以外の3品種は、例年より収穫量が大幅に減少した。

スイートコーンは、今年度から従来の「カクテル600」より熟期がやや早い「カクテルE-51」を導入した。直播栽培と移植栽培を行った。栽培圃場内の水はけの悪い部分では湿害の症状が出たが、全体の収量は減少しなかった。

春作カンランでは、育苗中にアブラムシが発生し、生育が遅れた。露地作では、アオムシ・ヨトウムシ・コナガなどの害虫や、軟腐病などの病害が多発した。加えて販売も不調であったことから、全体の6割以上を廃棄することとなった。秋作では、「初秋」

「おきな」「南宝」の早生系で、定植後ハイマダラノメイガの食害にあい欠株が多くなった。また収穫が遅れ、破裂株や虫の食害株が多発し3割程度廃棄処分となった。晩生の「うしお」や「湖月」は、販売時期に野菜の値段が高騰したため、順調に収穫を行うことができた。

ブロッコリーは露地の春作で地上部の生長が芳しくなく、頂花も小さかった。また、6月中旬頃にアオムシが大発生した。温室では、地上部はやや細かったものの、虫害もなくきれいなブロッコリーを収穫できた。秋作ではカリフラワー同様、予定より生育が早まり、12月収穫予定の区が11月中に収穫することになった。

カリフラワーは、10・11月の気温の低下が遅かった影響で、後から播種した区が前の区の生育に追いつく、という事態が生じた。本来なら12月に収穫するはずの株が11月中に収穫適期を迎えた。収穫時期が重なり、収穫作業や販売に影響が出た。

ハボタンは、「ピーチドレス」・「スノードレス」というポット作り用の品種を導入したが、植物ホルモン剤の散布時期が遅れたため、小型にならなかった。

春ホウレンソウはほとんどの区でとう立ちし、半分以上を廃棄することとなった。また、畦の両端部分以外は草丈が小さく下葉から黄化症状が現れた。ここ数年このような症状がよく見られるが、はっきりとした原因は分かっていない。秋作は、露地作で前半の区にヨトウムシの食害や生育のばらつきなどが見られた。温室栽培ではアブラムシ、ハウス2での栽培ではハクサイダニがそれぞれ大発生した。生育の遅れや吸汁跡などの被害はあったが、全て収穫・販売することができた。

ネギは前年に比べ1ヶ月程度定植が遅れたにもかかわらず、収穫を例年より半月から1ヶ月程度早めた結果、全て収穫・販売することができた。栽培中は雑草が多発した。

春レタスでは、新しくグリーンリーフレタス（品

種名「ダンシング」を導入した。例年通りとう立ちや軟腐病は多発したが、収穫期の幅が広がり廃棄する量は減少した。秋レタスは、播種・定植の遅れから特に露地栽培で生育が遅れ、収穫不能となった。

ニラは、2001年度から利用していた株が密植となり、葉幅が細くなってきたため株分けして移植したが、移植後の生育が順調ではなかったため3月末まで収穫できなかった。来年度に期待したい。

ニンニクは今年度からの新規作目である。9月に植え付け、平成16年6月に収穫予定である。3月現在順調に発芽し、一部虫の食害があったものの順調に生育をしている。

セルリーは、発芽が問題なかったにもかかわらず、育苗中にナメクジの食害にあい全滅した。結果として2品種を8回程度播種したが、苗は1畦分しかできなかった。また定植が例年より遅れ、十分な大きさにならないまま春先にとう立ちした。

パクチョイは、とう立ちやハイマダラノメイガなどの食害で、6～7割廃棄処分となった。

ミズナは、1～2月の低温時に凍害に遭い、品質は低下したが全て収穫できた。

シュンギクは発芽がやや不揃いであった。生育中盤からアブラムシは大発生したが、病気もなく、収穫量は多かった。

サトイモは今年度「石川早生」を4畦植え付けた。昨年の反省から除草には気を配り、雑草に生育を阻害されることはなかった。イモの品質・収量とも例年並みであった。

ヤマノイモは昨年の反省から、植え付け後すぐ剪定枝チップの有機物マルチを行った。その結果、場所によっては過湿の状態となった。今年度は種イモを切断して植え付けた。全体的に欠株が多く、地上部の生育も悪かった。そのため、イモの大きさは平

成14年度に比べて小さかったが、形は大変良くなった。種イモが保存中に腐りやすいので、種イモの保存方法を考えたい。

春カブはアブラムシとカブラハバチの幼虫、ウドンコ病が発生した。特に3回目播種分は被害が大きく半分程度廃棄処分となった。秋作は前半の区で、変形やキスジノミハムシの食害などが原因となり、3～4割程度が廃棄処分となった。

ダイコンは、春作でとう立ちによる廃棄が全体の半分に上った。秋作は特に前半の区で供給量が販売量を上回り、適期に収穫することができなかった。そのため全体として4割程度が廃棄処分となった。今年は冬季の降雨量が少なかったため病気が発生せず、3月上旬のとう立ちまで品質の良いものを収穫することができた。

春ニンジン収穫の後半に根部が腐敗した。秋作は雑草が多発し、除草の遅れたところは生育の遅れにつながった。

春パレイシヨは、特に「メイクイーン」と「デジマ」で発芽不良となり、半分程度しか発芽しなかった。また、発芽後の地上部の生育は全品種とも不良で、後半には病気も発生したため収穫量は少なかった。秋作は、春作での教訓から植え付け深度を浅くし、水はけにも気をつけたところ7割は発芽した。発芽した個体は順調に生育し、収量は多かった。しかし貯蔵中に病気が発生し、3割程度が廃棄となった。

今年度は、5月末に季節はずれの台風、夏季の低温・多雨、10・11月の高温など気象条件が異常であった。全体を通してみると除草に苦勞した1年であった。来年度以降は除草体系を見直したい。

(山奥 隆・酒井富美子)

第1表 クロップिंगシステム部門2003年度作物別耕種概要 (A)

作 目	作 目 コード	圃 場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
カンショ(1)	90	西4	20.0	ベニアズマ	4341.5	2170.8	296	135	25
エダマメ(1)	171	温室C	2.0	サッポロミドリ	85.0	425.0	595	80	21
エダマメ(2)	167	ハウス3	2.0	サッポロミドリ	197.0	985.0	595	80	21
エダマメ(3)	91	西2	2.5	宝石	1358.0	789.5	529	90	21
エダマメ(4)	91	西2	2.1	宝石	*	*	529	90	21
エダマメ(5)	91	西2	2.1	宝石	*	*	529	90	21
エダマメ(6)	91	西2	2.1	宝石	*	*	529	90	21
エダマメ(7)	91	西2	2.1	北海黒豆	*	*	529	90	21
エダマメ(8)	91	西2	2.1	北海黒豆	*	*	529	90	21
エダマメ(9)	91	西2	2.1	北海黒豆	*	*	529	90	21
エダマメ(10)	91	西2	1.1	北海黒豆	*	*	529	90	21
エダマメ(11)	91	西2	1.1	宝石	*	*	529	90	21
カボチャ(1)	177	西1	2.0	赤ずきん	66.2	331.0	13	500	150
カボチャ(2)	179	西1	2.0	利休	112.6	563.0	13	500	150
カボチャ(3)	176	西1	2.0	えびす	137.0	685.0	13	500	150
カボチャ(4)	178	西1	2.0	はやと	100.5	502.5	13	500	150
スイートコーン(1)	222	南3	3.1	カクテルE-51	1156.0	1032.1	265	90	42
スイートコーン(2)	222	南3	2.7	カクテル600	*	*	265	90	42
スイートコーン(3)	222	南3	2.7	カクテル600	*	*	265	90	42
スイートコーン(4)	222	南3	2.7	カクテル600	*	*	265	90	42
春カンラン(1)	95	西5	0.5	マルシェ	532.9	1522.6	333	60	50
春カンラン(2)	95	西5	0.5	金系201号甘藍	*	*	333	60	50
春カンラン(3)	95	西5	0.5	金系201号甘藍	*	*	333	60	50
春カンラン(4)	95	西5	0.5	金系201号甘藍	*	*	333	60	50
春カンラン(5)	95	西5	0.5	おきな	*	*	333	60	50
春カンラン(6)	95	西5	0.5	おきな	*	*	333	60	50
春カンラン(7)	95	温室A	0.5	おきな	*	*	333	60	50
カンラン(1)	95	西2	1.0	初秋	868.1	1578.4	333	60	50
カンラン(2)	95	西2	1.0	南宝	*	*	333	60	50
カンラン(3)	95	西2	0.5	おきな	*	*	333	60	50
カンラン(4)	95	西2	1.5	湖月	*	*	333	60	50
カンラン(5)	95	西2	0.5	うしお	*	*	333	60	50
カンラン(6)	95	西2	0.5	うしお	*	*	333	60	50
カンラン(7)	95	西2	0.5	湖月	*	*	333	60	50

第1表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (A)

作 目	作 目 コード	圃 場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
春ブロッコリー(1)	119	西5	0.5	ハイツ	55.4	221.6	333	60	50
春ブロッコリー(2)	119	西5	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
春ブロッコリー(3)	119	西5	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
春ブロッコリー(4)	119	西5	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
春ブロッコリー(5)	119	温室A	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー(1)	119	西2	0.5	ハイツ	122.0	610.0	333	60	50
ブロッコリー(2)	119	西2	0.5	ハイツ	*	*	333	60	50
ブロッコリー(3)	119	西2	1.0	ハイツ	*	*	333	60	50
カリフラワー(1)	106	西2	0.5	スノークラウン	71.2	356.0	333	60	50
カリフラワー(2)	106	西2	0.5	スノークラウン	*	*	333	60	50
カリフラワー(3)	106	西2	1.0	スノークラウン	*	*	333	60	50
ハボタン(1)	103	西2	1.0	F1白かもめ	367.0	917.5	333	60	50
ハボタン(2)	103	西2	1.0	F1紅かもめ	*	*	333	60	50
ハボタン(3)	103	西2	0.8	F1白はと	*	*	333	60	50
ハボタン(4)	103	西2	0.8	F1紅はと	*	*	333	60	50
ハボタン(5)	103	西2	0.3	F1スノードレス	*	*	333	60	50
ハボタン(6)	103	西2	0.3	F1ピーチドレス	*	*	333	60	50
春ハウレンソウ(1)	105	南3	1.0	リード	144.0	360.0	*	30	条播
春ハウレンソウ(2)	105	南3	1.0	リード	*	*	*	30	条播
春ハウレンソウ(3)	105	南3	0.5	リード	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ(4)	175	温室A	1.0	リード	19.2	192.0	*	30	条播
春ハウレンソウ(5)	105	南3	0.5	パレード	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ(6)	105	南3	0.5	おかめ	*	*	1111	60	15
春ハウレンソウ(7)	105	南3	0.5	おかめ	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(1)	105	西1	1.0	リード	272.2	680.5	1111	60	15
ハウレンソウ(2)	105	西1	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(3)	105	西1	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(4)	105	西1	0.5	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(5)	105	西1	0.5	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(6)	175	温室C	1.0	リード	25.3	253.0	1111	60	15
ハウレンソウ(7)	170	ハウス5	1.0	リード	213.5	854.0	1111	60	15
ハウレンソウ(8)	170	ハウス2	1.0	リード	*	*	1111	60	15
ハウレンソウ(9)	170	ハウス2	0.5	パレード	*	*	1111	60	15
春ネギ(1)	233	ハウス4	1.5	九条ねぎ	0.0	0.0	*	30	条播
ネギ(1)	117	西3	8.0	九条ねぎ	804.5	1005.6	370	90	30

第1表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (A)

作 目	作 目 コード	圃 場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
春レタス(R1)	218	西1	0.5	レッドウエーブ	140.5	1405.0	416	60	40
春レタス(R2)	218	西1	0.5	レッドウエーブ	*	*	416	60	40
春レタス(C1)	214	西1	0.5	シスコ	98.2	982.0	416	60	40
春レタス(C2)	214	西1	0.5	シスコ	*	*	416	60	40
春レタス(D1)	218	西1	0.5	ダンシング	63.5	635.0	416	60	40
春レタス(D2)	218	西1	0.5	ダンシング	*	*	416	60	40
春レタス(R3)	219	温室A	0.2	レッドウエーブ	15.1	377.5	416	60	40
春レタス(C3)	215	温室A	0.2	シスコ	*	*	416	60	40
レタス(R1)	218	西2	0.3	レッドウエーブ	90.7	604.7	416	60	40
レタス(R2)	218	西2	0.7	レッドウエーブ	*	*	416	60	40
レタス(R3)	218	西1	0.5	レッドウエーブ	*	*	833	60	20
レタス(C1)	214	西2	0.5	シスコ	33.2	332.0	416	60	40
レタス(C2)	214	西2	0.5	シスコ	*	*	416	60	40
レタス(C3)	213	ハウス1	0.8	シスコ	91.4	1142.5	416	60	40
レタス(R4)	217	ハウス1	0.8	レッドウエーブ	50.0	384.6	416	60	40
レタス(R5)	217	ハウス1	0.5	レッドウエーブ	*	*	416	60	40
ニラ(1)	242	ハウス2	1.5	グリーンベルト	133.9	446.3	1111	60	15
ニラ(2)	242	ハウス1	1.5	グリーンベルト	*	*	1111	60	15
ニラ(3)	242	ハウス3	1.5	グリーンベルト	-	-	833	60	20
ニンニク(1)	248	西5	2.0	ホワイト六片	-	-	1111	60	15
セルリー(1)	118	温室C	0.5	コーネル619	0.0	0.0	416	60	40
パクチョイ(1)	165	西1	0.6		75.4	628.3	833	60	20
パクチョイ(2)	165	西1	0.6		*	*	833	60	20
シュンギク(1)	173	温室A	1.0	お多福新菊	152.4	1016.0	1111	60	15
シュンギク(2)	173	温室A	0.5	お多福新菊	*	*	1111	60	15
ミズナ(1)	109	西1	0.9	晩生白茎千筋京水菜	294.5	1472.5	833	60	20
ミズナ(2)	109	西1	1.1	晩生白茎千筋京水菜	*	*	833	60	20
サトイモ(1)	122	西5	6.4	エグイモ	1053.0	1316.3	125	100	80
サトイモ(2)	122	西5	1.6	石川早生	*	*	125	100	80
ヤマノイモ(1)	236	西3	2.0	つくねいも	81.3	406.5	333	60	50

第1表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (A)

作 目	作 目 コード	圃 場	面積 a	品 種	生産量 kg	収量 kg/10a	栽培密度 株/a	畦幅 cm	株間 cm
春カブ(1)	235	ハウス5	0.3	耐病ひかり	126.8	1268.0	833	60	20
春カブ(2)	235	ハウス5	0.3	耐病ひかり	*	*	833	60	20
春カブ(3)	235	ハウス5	0.3	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ(1)	94	南3	1.2	耐病ひかり	604.5	2015.0	833	60	20
カブ(2)	94	南3	0.6	耐病ひかり	*	*	833	60	20
カブ(3)	94	南3	1.2	耐病ひかり	*	*	833	60	20
春ダイコン(1)	93	西3	1.0	おはる	358.6	1793.0	666	60	25
春ダイコン(2)	93	西3	0.5	おはる	*	*	666	60	25
春ダイコン(3)	93	西3	0.5	おはる	*	*	666	60	25
ダイコン(1)	93	南3	1.2	耐病総太り	1833.1	3055.2	666	60	25
ダイコン(2)	93	南3	1.2	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(3)	93	南3	1.2	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(4)	93	南3	1.2	耐病総太り	*	*	666	60	25
ダイコン(5)	93	南3	1.2	耐病宮重	*	*	833	60	20
春ニンジン(1)	120	西3	1.0	向陽2号	378.1	1080.3	2222	30	15
春ニンジン(2)	120	西3	1.0	向陽2号	*	*	2222	30	15
春ニンジン(3)	120	西3	1.0	向陽2号	*	*	*	30	条播
春ニンジン(4)	120	温室A	0.5	向陽2号	*	*	*	30	条播
ニンジン(1)	120	南3	1.2	向陽2号	765.4	1594.6	2222	30	15
ニンジン(2)	120	南3	1.2	向陽2号	*	*	*	30	条播
ニンジン(3)	120	南3	0.6	陽明五寸	*	*	*	30	条播
ニンジン(4)	120	南3	1.2	本紅金時	*	*	3333	30	10
ニンジン(5)	120	南3	0.6	陽明五寸	*	*	*	30	条播
春バレイショ(1)	186	西3	3.6	男爵いも	376.0	1044.4	400	100	25
春バレイショ(2)	183	西3	2.8	メイクイーン	42.0	150.0	400	100	25
春バレイショ(3)	184	西3	1.2	デジマ	33.0	275.0	400	100	25
春バレイショ(4)	182	西3	0.8	レッドアンデス	26.0	325.0	400	100	25
バレイショ(1)	184	西3	5.0	デジマ	473.4	946.8	381	105	25
エンバク(1)	-	西1	6.0	極早生スプリンター	-	-	*	30	条播

第2表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (B)

作 目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
カンショ(1)	03.25	06.19	10.02	11.17	5.3	18.0	16.0	5.3	18.0	16.0
エダマメ(1)	03.18	-	06.09	06.13	5.3	14.0	16.0	5.3	14.0	16.0
エダマメ(2)	03.26	-	06.16	06.27	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(3)	04.02	-	06.30	07.15	10.1	18.8	20.2	10.1	18.8	20.2
エダマメ(4)	04.15	-	07.15	07.24	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(5)	04.28	-	07.24	07.29	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(6)	05.16	-	07.30	08.07	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(7)	05.23	-	08.07	08.12	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(8)	06.05	-	08.18	08.22	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(9)	06.17	-	08.25	09.01	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(10)	06.30	-	09.01	09.04	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
エダマメ(11)	06.30	-	09.04	09.09	10.1	18.8	20.8	10.1	18.8	20.8
カボチャ(1)	04.10	-	07.11	08.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ(2)	04.10	-	07.11	08.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ(3)	04.10	-	07.14	08.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カボチャ(4)	04.10	-	07.04	08.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(1)	04.03	-	06.27	07.08	24.9	21.6	20.6	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(2)	04.22	-	07.10	07.22	24.9	21.6	20.6	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(3)	05.13	-	07.23	07.30	28.5	25.2	24.2	21.3	18.0	17.0
スイートコーン(4)	05.29	-	08.04	08.11	28.5	25.2	24.2	21.3	18.0	17.0
春カンラン(1)	02.18	04.01	06.04	06.23	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(2)	02.18	04.01	06.06	06.23	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(3)	02.28	04.08	06.20	06.26	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(4)	02.18	04.11	06.04	07.02	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(5)	02.28	04.23	06.20	07.07	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春カンラン(6)	03.17	04.30	07.11	07.11	25.5	18.0	20.6	21.3	18.0	17.0
春カンラン(7)	03.17	05.12	07.10	07.18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カンラン(1)	07.22	08.26	10.27	12.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(2)	07.18	08.26	10.27	12.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(3)	07.22	08.26	12.03	01.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(4)	08.01	09.04	12.18	02.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(5)	08.01	09.04	12.18	02.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(6)	08.01	09.12	12.19	02.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カンラン(7)	08.08	09.12	12.18	02.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (B)

作 目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春ブロッコリー(1)	02.28	04.08	06.10	07.04	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー(2)	02.28	04.23	06.10	07.04	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー(3)	02.28	04.30	06.23	07.09	25.5	18.0	20.6	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー(4)	03.28	05.07	06.30	07.09	25.5	18.0	20.6	21.3	18.0	17.0
春ブロッコリー(5)	03.17	05.12	07.04	07.18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ブロッコリー(1)	07.22	08.26	10.27	12.15	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー(2)	08.01	09.04	11.12	01.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ブロッコリー(3)	08.08	09.12	11.13	01.13	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(1)	07.22	08.26	11.06	12.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(2)	08.01	09.04	11.13	12.18	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カリフラワー(3)	08.08	09.12	11.13	01.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ハボタン(1)	08.08	09.19	11.11	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
ハボタン(2)	08.08	09.19	11.11	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
ハボタン(3)	08.08	09.19	11.11	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
ハボタン(4)	08.08	09.19	11.11	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
ハボタン(5)	08.08	09.19	12.25	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
ハボタン(6)	08.08	09.19	12.28	12.26	18.7	17.0	16.5	18.7	17.0	16.5
春ホウレンソウ(1)	03.20	-	04.30	05.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(2)	03.24	-	05.07	05.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(3)	04.01	-	05.07	05.16	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(4)	04.04	-	05.08	05.09	13.3	10.0	9.0	13.3	10.0	9.0
春ホウレンソウ(5)	04.17	-	05.16	05.27	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(6)	04.28	-	05.26	06.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ホウレンソウ(7)	05.09	-	06.03	06.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(1)	09.04	-	10.14	10.31	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(2)	09.11	-	10.20	10.31	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(3)	10.01	-	11.10	11.20	21.3	38.0	17.0	21.3	38.0	17.0
ホウレンソウ(4)	10.07	-	11.20	12.02	21.3	28.0	17.0	21.3	28.0	17.0
ホウレンソウ(5)	10.20	-	12.26	02.12	21.3	28.0	17.0	21.3	28.0	17.0
ホウレンソウ(6)	10.30	-	12.17	01.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(7)	11.04	-	01.08	03.31	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(8)	11.11	-	02.24	03.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ホウレンソウ(9)	11.11	-	02.24	03.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ネギ(1)	04.17	-	07.04	08.06	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ネギ(1)	04.17	08.06	09.22	02.17	28.6	23.1	22.1	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (B)

作 目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春レタス (R1)	02.18	04.01	05.09	05.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (R2)	02.28	04.08	05.27	06.06	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (C1)	02.18	04.01	05.22	06.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (C2)	02.28	04.08	06.09	06.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (D1)	04.11	05.07	06.10	06.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (D2)	04.24	05.22	06.20	07.08	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春レタス (R3)	02.18	04.08	05.06	05.08	13.3	10.0	9.0	13.3	10.0	9.0
春レタス (C3)	02.18	04.08	05.22	06.03	13.3	10.0	9.0	13.3	10.0	9.0
レタス (R1)	10.24	11.28	03.10	03.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (R2)	09.08	10.06	12.08	01.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (R3)	10.06	11.05	01.08	02.12	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (C1)	10.06	11.12	02.13	03.01	21.3	18.0	0.0	21.3	18.0	0.0
レタス (C2)	09.08	10.06	12.08	01.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (C3)	10.07	11.05	-	-	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (R4)	10.24	11.28	01.26	02.05	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
レタス (R5)	10.24	02.23	03.31	04.14	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニラ (1)	01.03.22	01.08.21	04.10	06.25	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
ニラ (2)	01.03.22	01.08.20	04.01	05.23	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
ニラ (3)	01.03.22	07.01	-	-	26.6	21.2	20.2	21.3	18.0	17.0
ニンニク (1)	09.22	-	-	-	21.3	38.0	17.0	21.3	38.0	17.0
セルリー (1)	08.01	01.09	-	-	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
パクチヨイ (1)	09.12	10.06	10.17	11.11	21.3	38.0	17.0	21.3	38.0	17.0
パクチヨイ (2)	09.24	10.21	11.17	12.15	21.3	28.0	17.0	21.3	28.0	17.0
シュンギク (1)	10.08	-	11.28	03.17	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
シュンギク (2)	10.21	-	12.18	03.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ミズナ (1)	09.12	10.06	10.17	11.27	21.3	38.0	17.0	21.3	38.0	17.0
ミズナ (2)	09.24	10.21	11.27	03.01	21.3	28.0	17.0	21.3	28.0	17.0
サトイモ (1)	04.16	-	11.12	12.08	45.3	42.0	41.0	21.3	18.0	17.0
サトイモ (2)	04.16	-	11.12	12.08	45.3	42.0	41.0	21.3	18.0	17.0
ヤマノイモ (1)	04.21	-	12.03	12.04	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0

第2表 クロッピングシステム部門2003年度作物別耕種概要 (B)

作 目	播種日	定植日	収穫始	収穫終	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
					N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春カブ(1)	03.25	-	05.06	05.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ(2)	04.04	-	05.15	05.29	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春カブ(3)	04.11	-	05.30	06.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(1)	09.02	-	10.17	11.19	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(2)	09.18	-	11.14	12.10	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
カブ(3)	10.02	-	12.11	01.26	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(1)	03.31	-	06.02	07.02	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(2)	04.07	-	06.12	07.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ダイコン(3)	04.15	-	07.02	07.07	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(1)	09.02	-	10.27	11.25	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(2)	09.11	-	11.26	12.18	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(3)	09.26	-	12.19	03.01	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(4)	10.02	-	01.21	01.21	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ダイコン(5)	09.22	-	12.16	02.13	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(1)	03.14	-	06.16	08.18	25.5	18.0	19.4	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(2)	03.24	-	06.19	08.18	24.5	18.0	18.8	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(3)	03.31	-	06.16	08.18	23.4	18.0	18.2	21.3	18.0	17.0
春ニンジン(4)	04.04	-	06.23	07.01	13.3	10.0	9.0	13.3	10.0	9.0
ニンジン(1)	08.11	-	10.27	12.19	24.3	20.2	19.2	21.3	18.0	17.0
ニンジン(2)	08.21	-	11.11	02.19	24.3	20.2	19.2	21.3	18.0	17.0
ニンジン(3)	08.21	-	11.13	02.18	24.3	20.2	19.2	21.3	18.0	17.0
ニンジン(4)	08.29	-	12.01	02.23	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
ニンジン(5)	09.11	-	11.17	02.10	24.3	20.2	19.2	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(1)	03.12	-	06.02	06.03	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(2)	03.12	-	06.06	06.06	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(3)	03.12	-	06.06	06.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
春バレイショ(4)	03.12	-	06.09	06.09	21.3	18.0	17.0	21.3	18.0	17.0
バレイショ(1)	09.10	-	11.12	12.05	21.3	28.0	17.0	21.3	28.0	17.0
エンバク(1)	03.13	-	05.19	05.20	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4	6.4

(2) 汎用耕地部門

今年度は、直播期間中の雨が少なく気温も例年に比べて高く推移した。移植栽培は岡山水田、八浜水田ともに苗の生育は順調に進み、田植えも平年並みに行え、活着も順調であった。乾田直播栽培の播種時期は天候に恵まれヒノヒカリ、アケボノともに播種時期、発芽ともに順調に推移した。しかし、その後7月、8月の天候が不順な状態になり例年に比べて梅雨明けが遅れるなど、平年より気温の低い天候が続いた。コブノメイガ、イネアオムシ等の発生も多くみられ、一部で被害も発生した。出穂期はヒノヒカリ、アケボノともに昨年並で、収穫時期に台風の影響もなく、倒伏等の被害も少なかった。また出穂後は高温、多照が続いたので、登熟はおおむね順調に推移した。収穫量は晩生のアケボノと中生のヒノヒカリで大差ない結果となった。水稻の作柄、作況指数は全国平均が469kg/10a「90」、岡山県南部は528kg/10a「100」であった。岡山水田は栽培品種をアケボノに統一し、田植え機を用いて成苗（葉齢5

～5.5）を1号、2号水田に移植栽培した。また、3号水田では、修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。八浜水田は1号～5号水田を乾田直播栽培、6号水田に成苗（葉齢5～5.5）を用いた移植栽培とし、中生品種のヒノヒカリと晩生品種のアケボノを栽培して作業の分散を図った。また、カキ殻の多い場所では秋落ちしやすい傾向がみられたため、水田の一部に追肥を行った。

本農場の水稻収量は岡山水田560kg/10a、八浜水田アケボノ568kg/10a、ヒノヒカリ546kg/10a、平均558kg/10aとなり、昨年（546kg/10a）並であった。また、牧草のヘイ・スーダンの1回刈り目は14,200kg/10a、2回刈り目には7,500kg/10a、合計21,700kg/10a(生草)となった。また、本年度はヒノヒカリ11,790kg、アケボノ3,000kgを学内販売した。

(多田正人)

第1表 栽培面積

作 目	栽培様式	種栽	場及び面積(a)	合計(a)
岡山水田 水稻	移植	アケボノ	1号(40)	40
	移植	アケボノ	2号(64)	64
	試験研究用		3号(5、研究室・未収穫)	-
八浜水田 水稻	直播	アケボノ	1号(211) 2号(158) 3号(69)	438
	直播	ヒノヒカリ	4号(81) 5号(134)	215
	移植	アケボノ	6号(54)	54
牧草		ヘイ・スーダン	1号(70)	70

第2表 栽培の概要

作 目	栽培様式	品種	播種・移植期	播種量 kg/10a	種類	施肥量 (kg/10a)			収穫期
						N	P ₂ O	K ₂ O	
岡山水田 水稻	移植	アケボノ	5/12・6/16～18	1.4	LP	8.4	8.4	8.4	10/20～10/24
八浜水田 水稻	直播	アケボノ	5/19～5/23	6.0	LP	8.4-12.2	8.4	8.4	10/31～11/7
	直播	ヒノヒカリ	5/6	9.0	002	12-18	6.0	7.2	10/7～10/10
	移植	アケボノ	5/13・6/24	1.4	LP	8.4	8.8	8.8	11/7
牧草	直播	ヘイ・スーダン	4/22	7.0	化成	14.1	6.2	6.2	7/27～10/2

第3表 水稲防除作業内容

	薬 剤 名	圃場名(号田)	使用量(/10a)	月/日		
八浜水田 除草剤	サターン乳剤	1,2,3,4,5	819ml	5/27~6/4		
	スタム乳剤	1,2,3,4,5	510ml	5/27~6/4		
	スタム乳剤	1,2,3,4,5	590ml	6/9		
	ラクダーLフロアブル	2,4,5,6	500cc	6/19~6/20		
	ダイハード粒剤	1,3	60 g	6/20~6/26		
	クリンチャー乳剤	1,4,5	98cc	6/11		
	殺虫	アドマイヤー粒剤	1,2,3,4,5	2.9kg	5/15~6/6	
		殺菌剤	EPN乳剤	1,2,3,4,5,6	65cc	7/22~7/25
		バリダシン水和剤	1,2,3,4,5,6	65 g	7/22~7/25	
		アプロード水和剤	1,2,3,4,5,6	71 g	7/22~7/25	
		ヒノザン乳剤	1,2,3,4,5,6	89cc	8/22~8/29	
		EPN乳剤	4,5	98cc	8/22~8/29	
		バリダシン水和剤	1,2,3,4,5,6	98 g	8/22~8/29	
		トレボン乳剤	1,2,3,6	94cc	8/22~8/29	
岡山水田 除草剤	クサノメツツフロアブル	1,2	500cc	6/19		
	殺虫	殺菌剤	EPN乳剤	1,2	65cc	7/24
			バリダシン水和剤	1,2	65 g	7/24
			アプロード水和剤	1,2	71 g	7/24
			EPN乳剤	1,2,3	98cc	8/21
			バリダシン水和剤	1,2,3	98 g	8/21
			アプロード水和剤	1,2,3	71 g	8/21
			ヒノザン乳剤	1,2,3	89cc	8/21

(3) 装置化生産部門

i. 果樹部

今年度、果樹部が栽培を担当した圃場面積は、岡山農場165.8a（露地103.8a，雨よけハウス54.6a，ガラス室7.3a）および本島農場49a（すべて露地）であった。岡山農場では技官2名と技能補佐員1名が、本島農場では技能補佐員1名が主に管理を行った。

6～7月は晴天日が少なく、低温と日照不足で推移した。9月の気温は高く、11月は雨天日が多かった。天候不順の影響で、果実の食味は全体的に例年よりも劣った。

岡山農場の生産実績を第1表に、本島農場の生産実績を第2に示した。キウイフルーツ、ウメおよびビワを除いて生産量に大きな変動はなかったが、ほとんどの種類で販売価格が低下したため、販売収入は前年度よりも減少した。

慢性的な労力不足のため十分な管理ができたとは言えないが、岡山農場では、今年度も各園でワルナスビへの除草剤の塗布処理を行い、本島農場では下草管理など環境整備に重点をおいた。

岡山農場では、除草作業のスピードアップのため、年度末の3月に、乗用草刈機（RM86型、オーレック社製）を新規購入した。

(1) モモ

‘紅清水’と‘黄金桃’では前年度に比べ生産量が増加したが、‘あかつき’では摘蕾の時期と程度が不相当であったため前年度よりも生産量が減少した。‘清水白桃’では実験樹としての利用が増えたため、前年度に比べて生産量が減少した。

収穫期の天候不順の影響で果実の糖度は全体的に低く、Brix値が‘あかつき’と‘紅清水’では10前後、‘清水白桃’では12前後、‘黄金桃’では11～12前後であった。果実の糖度は低かったが、‘あかつき’と‘紅清水’では外観の良い400g前後の大玉果が多く、すっきりとした味で、フレーバーは優れていた。一方、‘黄金桃’では果実の肉質がざらついて食感が悪く、‘清水白桃’と‘黄金桃’では一部の果実に渋味が認められた。‘紅清水’では一部の

果実に白袋に代えてオレンジ袋を掛けたが、オレンジ袋を掛けた果実は‘清水白桃’に似てジューシーで、大きさのわりに重みがあったが、収穫適期の幅がせまく、収穫後の日持ちが悪かった。

今年度も、‘あかつき’、‘紅清水’および‘清水白桃’の3品種の収穫期が7月下旬の2週間に集中した。優れた果実は、即日、箱詰めして贈答用の化粧箱入りで販売したが、それ以外の果実の需要には限りがあり、さばききれなかった果実については低温貯蔵庫で保存した。保存期間が長くなると、果肉の軟化や黒変が進み、長期の保存は困難であった。

4号園では、収穫終了後の9月に今年度も間伐を行い、12月には‘川中島白桃’、‘白桃’および‘白麗’を各々1本定植した。今回の間伐によって、栽植距離は、8m×8mに統一された。

1号園のモモ樹は、今年度、すべて実験用に提供した。

(2) ブドウ

【雨よけハウス】

全体的に前年度並の生産量であったが、6～7月の低温・日照不足の影響と9月の高温の影響で、果実の食味や着色が例年よりも劣るものが多かった。

‘藤稔’では、果実の着色・食味ともに良好であったが、‘ピオーネ’では果実の着色不良が目立ち、‘マスカット・ベリーA’では果粒の肥大は進んだが、裂果が極端に多く、甘み、酸味、香りともに低く、淡白な食味であった。‘巨峰’と‘ヒロハンプルグ’では新梢管理が行き届かず、果実の品質は不良であった。‘デラウェア’では1本を除いて樹勢が弱く、果実の実止まりが悪かった。

ハウス全体にコナカイガラムシの被害が拡大しており、特に、中生・晩生品種では被害が甚大であった。冬季に粗皮剥ぎを行っているが、高压洗浄機で剥げない芽の周辺は手作業のため、全ての樹の粗皮を除去することは時間的に困難であった。また、防除時期の遅れから、ブドウスカシバとチャノコカクモンハマキの発生が多く、‘ピオーネ’と‘巨峰’では晩腐病の発生が例年よりも目立った。

樹冠が拡大した‘藤稔’、‘巨峰’および‘ヒロハ

ンブルグ’では収穫終了後に間伐を行った。また、‘ピオーネ’の着色不良樹と‘ヒロハンブルグ’および‘アーリー・スチューベン’の一部を伐採し、12月に‘ピオーネ’、‘ゴルビー’、‘翠峰’、‘サニールージュ’および‘ハニーシードレス’各々2本と、‘キャンベルアーリー’および‘瀬戸ジャイアンツ’各々1本を定植した。

‘ピオーネ’と‘デラウェア’各1樹については、4月から7月までの間、基礎農場実習Ⅱを受講した学生が管理した。

【ガラス室】

生産量は、‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’および‘グロー・コールマン’ともに前年度並みであった。2月加温栽培を行った地中温度コントロール室の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では、果実のBrix値は18~19であったが、芳香が少なく、食味は例年よりも劣った。無加温栽培の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’では例年並の品質であった。‘グロー・コールマン’の食味は例年よりも良かった。

収穫可能な果実の生産ができなかった養水分コントロール室の‘藤稔’と、大温室の南側2本の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’を伐採し、試作のためのスペースとして利用することにした。室内温度コントロール室では、生育不良の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’1本を植え替えた。

(3) リンゴ

シンクイムシ類やハマキムシ類の被害が増えているため、今年度から、交信攪乱剤のコンフューザーAを導入した。薬剤の有効期間が4か月であることを考慮して、取り付け時期を5月初めとしたが、越冬世代の発生に間に合わず、初期の害虫の密度が高かったため思ったほどの効果は得られなかった。殺虫剤の散布を数回行ったが被害を食い止めることはできず、特に‘ふじ’では、3分の2以上の果実がシンクイムシ類による被害を受けた。

各品種ともに果実の実止まりは良く、摘蕾、摘花の程度が適当であったため中玉・大玉が中心であった。天候は不安定であったが、例年よりも灌水量を控えたため過繁茂状態になることが少なく、果実の

食味は各品種ともに例年よりも良かった。

今年度も収穫終了後に間伐を行い、一部を除いて、栽植距離を樹間4m×列間3mに統一した。園の北側3列の‘ふじ’（M26台）、‘つがる’および‘千秋’の一部を収穫終了後に伐採し、新たに‘ふじ’（M9台）8本と、‘紅玉’、‘ゴールデンデリシャス’、‘スターキングデリシャス’、‘国光’、‘印度’、‘あおり9’各々2本を11、12月に定植した。

(4) カキ

全体的にはほぼ例年並みの生産量であった。摘果程度を強めたため各品種とも大玉果の割合が増えたが、天候不順の影響もあって全体的に淡白な食味の果実が多かった。

‘富有’では今年度も12月まで樹上に果実を残したが、果実の軟化や鳥による食害が少なかったため、生産量は前年度の2倍程度あった。‘愛宕’では、未脱渋の生果での販売のほか、今年度も干し柿に加工しての販売を行った。大玉の果実が多く、20日程度乾燥して渋が抜けた果実をまだ少し柔らかいうちに販売したため、好評であった。

11、12月には、樹冠の拡大した‘平核無’および‘西条’の間伐を行い、新たに‘禅寺丸’2本を定植した。

(5) キウイフルーツ

樹冠を拡大中のため、今年度も前年度に比べて生産量が増加した。11月から12月初頭にかけて収穫した果実を低温貯蔵庫に保管して随時取り出し、室温で、エチレングス300ppm、4日間の追熟処理を行って、1月下旬まで販売した。果実の大きさにはばらつきがみられ、糖度も前年度ほどには上がらなかったが、追熟果は、食味、固さ、日持ちともに優れていた。

‘ハイワード’9本の中に果実の形状と食味が明らかに異なる樹が2本あり、異品種の混入が考えられた。

(6) 見本園

ウメおよびビワでは労力不足のため栽培管理がほとんどできず、生産量は前年度に比べて大きく減少した。

前年度に剪定枝チップでマルチングを行ったウメでは、未熟な有機物を大量に敷き詰めたため、有害物質による影響や土壌の酸素欠乏が発生したと考えられ、樹勢の低下が認められた。このため、9、10月に剪定枝チップを除去し、代わりに、下草管理の省力化を考えて、夏場に枯れて自然倒伏するナギナタガヤを播種した。

4月に小温室西側に、新たに、ハイブッシュブルーベリー‘ブルークロップ’、ラビットアイブルーベリー‘ティフブルー’およびラズベリー‘レオン’各々2本と、ブラックベリー‘ソーンレス’およびブラックベリー‘ボysonベリー’各々1本を定植した。

(7) 柑橘類 (本島農場)

非常勤の技能補佐員が1名のみで宿泊施設の管理

を含めたあらゆる日常業務を行っているため、労力不足が深刻で、今年度も十分な栽培管理ができなかった。

ウンシュウミカンほぼ前年度並みの生産量であったが、今年度も摘果量が不足したため小玉果が多く、園内には1年ごとに表年と裏年を繰り返す樹が多くなった。収穫時期の遅い普通温州では、カラスやヒヨドリによる食害が著しく、収穫皆無に近い状況であった。

中晩柑類では、摘果程度が適当であったため、中・大サイズの果実が多かった。ハッサクは表年にあたり、前年度の10倍以上の生産量があった。

レモンやイヨカンでは樹勢が低下して枯死する樹が増加した。

(近藤毅典・永田恵美)

第1表 平成15年度岡山農場果樹類生産量

種 類	品 種	面積(a)	生産量(kg)
モモ	清水白桃	13.9	535
	あかつき	3.7	337
	紅清水	3.5	518
	黄金桃	4.0	551
ブドウ	藤稔	8.5	890
	ピオーネ	8.2	651
	巨峰	4.3	513
	マスカット・ベリーA	5.8	1,131
	ヒロハンプルグ	2.9	417
	アーリー・スチューベン	1.9	256
	ネオ・マスカット	1.0	146
	デラウェア	1.9	17
	マスカット・オブ・アレキサンドリア	5.7	425
	グロー・コールマン	0.8	164
リンゴ	つがる	4.8	554
	千秋	1.2	119
	ふじ	8.6	355
カキ	富有	5.6	564
	松本早生富有	3.1	363
	平核無	3.8	310
	西条	3.9	311
	愛宕(生果)	6.2	1,104
	愛宕(乾果)		159
キウイフルーツ		7.4	481
ウメ		4.2	18
ビワ		3.9	58

第2表 平成15年度本島農場柑橘類生産量

種類	生産量(kg)
ウンシュウミカン	3,804
甘夏	2,435
イヨカン	543
ハッサク	681
ポンカン	130
レモン	56
その他	1,711

ii. 野菜・花き部

平成15年の3～4月は平年に比べ比較的暖かった。5月30日に予期しない台風4号が襲来した。梅雨期の降水量は平年より少なく、梅雨が明けてから7月～8月にかけて曇雨天が続き日照不足の傾向となった。8月8日に台風10号が襲来し、作物に悪影響を及ぼした。秋は晴天が多く、冬は強い冬型の気候で推移した。野菜および花きの耕種・生産の概要をそれぞれ表1と表2に示した。

1. 果菜類

スイカは、昨年までは‘美縞二号’を栽培していたが、今年度は‘天竜’を栽培した。定植は4月22日の学生実習で行い、その後の生育は順調であった。受粉はイチゴの受粉に使用していたミツバチを利用した結果、労力が大幅に削減できた。収穫前にウリハムシが発生し、果皮の食害されたものがあった。収穫は7月7日から始め、8月19日に終了した。収量はほぼ予定どおりであった。7月15日と22日には学生実習でも収穫した。

トマトは(‘桃太郎ファイト’を主に栽培)春作では1月8日に播種を行い、2月6日に定植した。その後の生育は順調であったが、4月下旬に下葉が枯れる症状が見られたため、殺菌剤を散布し、防除した。受粉は4月9日にマルハナバチを導入した。収穫は5月16日から6月下旬まで行った。秋作では前年まで播種を7月中旬に行っていたが、光熱費削減のため播種時期を早めた(7月2日播種)。9月下旬より収穫を始め年内に終了した。生育初期にハモグリバエが発生したが、薬剤散布によって駆除した。その後の生育は順調であったが、9月頃より下葉が枯れる症状が見られ、果実の肥大が悪く、裂果も多く、後半の収量は減少した。

イチゴは、5月8日に親株からランナー受けを行い、5月16日にプランターに植えた。その後7月中旬からランナー受けを行い、育苗した。定植は9月22日学生実習で行い、その後の生育は順調であった。12月にダニの発生が見られたため薬剤散布を行ったが、1月に入っても多いので、再度薬剤を散布した。しかし、それでも完全に駆除できなかつたため、生育が劣った。今後はダニ駆除に重点をおきたい。

ナス(‘筑陽’)は3月6日に播種を行い、4月22

日の学生実習により定植した。その後の生育は順調であった。収穫は6月18日から行い、10月29日に終了した。8月上旬にダニが多く発生し、その後の収量は減少した。

ソラマメは生育が順調で病害虫の発生も少なく、昨年に比べて大幅な増収となった。

2. 葉菜類

ハクサイは、昨年と同様、直播栽培とし1回目の播種を8月29日、2回目の播種を9月10日に行った。従来は株間を48cmとしていたが、1個の重量が大きくなりすぎるので、一部についてはその半分の24cmで栽培したところ、球がやや小さくなり、消費者に好評であった。収穫は10月24日から行い2月19日で終了した。

タマネギは9月18日に播種し、発芽揃いは良かったが雑草除去に労力を要した。定植は10月27日に学生実習で行った。その後の生育は順調であった。5月上旬にべと病が発生したが、薬剤散布により防除できた。雑草管理も行き届き玉揃いも良く、4月23日から収穫を始め5月27日の学生実習で終了した。

3. 花き

電照ギクは‘黄金’、‘心’、‘轟’、‘金風車’、‘舞風車’、‘夢路’の6品種を栽培した。定植は8月18日～19日に行い、その後の生育は順調であったが、11月下旬に一部にシンクイムシやヨトウムシが発生して芯が止まった。電照は8月26日に開始し、11月15日に終了した。収穫は、正月用の花として12月上旬から始め年内に終了した。露地ギクの生育は順調で、シンクイムシやヨトウムシの発生も例年に比べ少なく、収量も前年を上回った。

カーネーションは定植を6月20日に行った。品種は‘ロザリア’‘リセエンス’‘イルミネーション’の3種類であった。初期生育は順調であったが、ガラス温室は高温なため寒冷紗で遮光した。そのためか徒長気味の生育になったが、その後は気温の低下とともに徐々に回復し、11月28日から収穫した。

スターチスは定植を7月1日に行なった。植え傷みが生じ、枯死したものがあったが、その後の生育は順調で、11月28日から収穫をした。

カスミソウは栽培管理をほとんど行わなかつた。

(山本 昭)

第1表 平成15年度野菜耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
トマト	桃太郎ファイト・他	汎用温室B	440.0(m ²)	1,299.6(kg)
ナス	筑陽	南1号	2.0(a)	351.7(kg)
スイカ	天竜	南2号	7.5(a)	1,147.7(kg)
キンウリ	金太郎	南2号	3.0(a)	202.9(kg)
ソラマメ	打越一寸	南1号	2.0(a)	194.0(kg)
イチゴ	とちおとめ	ガラス温室	181.0(m ²)	224.2(kg)
ハクサイ	金将2号・無双	南2号	10.0(a)	2,111.7(kg)
ハクサイ(まびき菜)	金将2号・無双	南2号		127.0
コマツナ	楽天	ハウス	250.0(m ²)	148.6(kg)
チンゲン菜	青武	ハウス	250.0(m ²)	216.0(kg)
白タマネギ	ターボ	南1号	4.5(a)	1,749.3(kg)
赤タマネギ	猩々赤	南1号	1.5(a)	342.6(kg)
タマネギ苗	ターボ・猩々赤	南2号	2.0(a)	6,920(本)

第2表 平成15年度花き耕種・生産概要

種 類	品 種	圃場名	面積	収穫量
露地ギク	雪小路・他	南2号	5.0(a)	5,086(本)
電照ギク	心・他	ハウス	250.0(m ²)	3,205(本)
カーネーション	リセエンヌ・他	汎用温室C	67.0(m ²)	2,399(本)
スターチス	ブルーシンフォニー・他	汎用温室C	70.0(m ²)	3,190(本)
カスミソウ	ブリストルフェアリー	汎用温室C	3.0(m ²)	35(本)

(4) 山地畜産部門

〈和牛〉

平成15年の飼育牛移動状況を第1表に示した。子牛生産頭数は雌が18頭で、雄が15頭の計33頭であった。本年は、へい死などによる頭数の減少はなかったものの、死産が2件あった。本年の販売総数は29頭で、そのうち子牛は21頭で、肥育牛が8頭であった。

繁殖成績を第2表に示した。人工授精では38頭を、受精卵移植では1頭を受胎させることができた。人工授精では昨年と同じくらいの高い受胎率を得ることができた。しかし、受胎時期の片寄る傾向は、依然として改善できなかった。受精卵移植について、移植頭数が今年も少なかった。

子牛の販売成績を第3表に示した。出荷頭数は去勢が6頭で、雌が15頭の合計21頭であった。出荷日齢は前年と比較して、去勢で4日、雌で5日も短くなった。出荷体重は前年と比較して、去勢・雌とも

4kgほど増えた。価格は前年より、去勢・雌ともに高値であった。本年は生後1・2カ月の子牛の下痢が、激減したように思われる。要因として、生まれてすぐの生菌剤の投与とコクシジウム症の予防プログラムを行った成果によるものと思われる。今後も下痢の予防と、早期発件・早期治療に努め、月齢に応じた発育の牛を育てたい。

枝肉販売成績を第4表に示した。去勢牛の出荷は5頭で、枝肉格付はA-3が2頭、A-2、A-4、B-3、がそれぞれ1頭であった。本年も去勢牛が、中期以降の餌喰いが悪く体重も増えず。それに尿石症を発症したため出荷の時期を早めた。尿石症の対策としてはトウモロコシの給与割合を増やすことで対応している。今後もビタミンの給与法を導入しつつ、飼育管理の改善を図りたい。

(野久保 隆)

第1表 平成15年度飼育移動状況

		雌				雄			合計	
		子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛		
15.04.01	現在	17	2	33	2	7	0	5	66	
期間 移動	増	生産	10	-	-	-	9	-	-	19
		振替	-	6	3	1	-	3	-	12
	減	振替	6	2	2	-	3	-	-	12
		へい死	-	-	-	-	-	-	-	0
		売却	7	-	-	2	1	-	2	12
15.10.01	現在	14	6	34	1	12	3	3	73	
期間 移動	増	生産	8	-	-	-	6	-	-	14
		振替	-	1	6	1	-	-	3	11
	減	振替	1	6	1	-	-	3	-	11
		へい死	-	-	-	-	-	-	-	0
		売却	8	-	-	1	5	-	3	17
16.03.31	現在	13	1	39	1	13	0	3	70	

第2表 平成15年人工授精・受精卵移植成績 (15.1.1~15.12.31)

	実施 頭数	受胎 頭数	受胎率 (%)	授精回数							
				1		2		3		4以上	
				受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎	受胎	不受胎
人工授精	41	38	92.7	23	1	11	1	3	1	1	-
受精卵移植	2	1	50.0	1	1	-	-	-	-	-	-

第3表 平成15年度子牛販売成績

販売年月日	耳標番号	生年月日	性別	生後日齢(日)	体重(kg)	日齢体重(kg/日)	落札価格(千円)	kg当り単価(円/kg)	母牛番号	父牛名号
15.04.18	R798	14.07.12	去	280	268	0.957	409	1,526	Y168	利花
	R799	14.07.21	雌	271	272	1.003	371	1,363	Y191	沢幸土井
	R801	14.07.26	雌	266	248	0.932	339	1,366	Y207	貴安福
	R805	14.08.10	雌	251	246	0.980	345	1,402	Y194	貴安福
15.07.18	R808	14.09.09	雌	312	263	0.842	282	1,072	Y214	利花
	R810	14.09.26	雌	295	255	0.864	282	1,105	Y180	利花
	R811	14.10.03	雌	288	241	0.836	288	1,195	Y215	利花
	R812	14.10.21	雌	270	256	0.948	277	1,082	Y179	沢幸土井
15.10.22	R815	15.03.04	去	232	264	1.137	335	1,268	Y204	利花
	R817	15.03.16	雌	220	277	1.259	309	1,115	Y178	沢茂勝
15.11.21	R814	15.02.15	雌	279	244	0.874	260	1,065	Y206	沢幸土井
	R816	15.03.12	去	254	278	1.094	453	1,629	Y208	貴安福
15.12.19	R819	15.03.28	雌	266	252	0.947	293	1,162	Y198	利花
	R820	15.04.04	去	259	276	1.065	475	1,721	Y210	貴安福
	R821	15.04.07	去	256	261	1.019	460	1,762	Y212	北仁
	R823	15.04.25	雌	238	259	1.088	307	1,185	Y211	美桜9
16.01.21	R818	15.03.18	去	309	264	0.854	460	1,742	Y216	北国4の3
	R822	15.04.17	雌	279	237	0.849	350	1,476	Y200	金鶴
16.02.18	R824	15.04.30	雌	294	250	0.919	353	1,412	Y217	貴安福
	R825	15.05.22	雌	272	240	0.822	256	1,483	Y218	利花
	R826	15.06.15	雌	248	235	0.947	310	1,319	Y203	貴安福
	平均	全頭	21	268	256	0.955	348	1,359		
		去勢	6	265	268	1.011	432	1,611		
		雌	15	270	251	0.929	314	1,250		

第4表 平成15年度枝肉販売成績

と殺年月日	耳標番号	性別	水引枝肉重量(kg)	枝肉規格	枝肉単価(円/kg)	売金(円)	上額
15.05.14	W135	去	518.4	B-3	1,400	736,020	
	W137	去	521.6	A-3	1,500	792,660	
15.06.05	Y168	雌	375.4	B-1	400	153,865	
	Y202	雌	408.4	B-2	751	310,502	
15.10.21	W138	去	417.7	A-4	1,680	714,010	
	W139	去	334.8	A-2	1,261	433,126	
	W140	去	365.8	A-3	1,510	564,368	
16.02.18	Y178	雌	413.0	C-1	500	208,700	

〈飼料作物〉

平成15年度における飼料作物の生産状況を第1表に示した。採草地における飼料作物の青草換算による収量は262,945kgであり、10a当たり平均収量は5,301kgであった。採草地と放牧草地との収量を合わせた総収量は438,185kgであった。利用形態別による収量割合は青刈りで23.5%、乾草で15.5%、サイレージで21.0%、放牧で40.0%であった。

今年度は夏作のトウモロコシ、ソルゴー、スーダングラスの収量が減った為、例年と比べ減収となった。乾草調製用の材料草としてE、K3号草地からイタリアンライグラス、スーダングラス、D2、K1号草地からイタリアンライグラス、K2号草地からエンバクを収穫した。本年の乾草収量は平成14年度に比べ8,385kgの増収となった。今年度は例年より多くの草地から生産することにより増収となっているが、夏作のスーダングラスでは播種後6、7月の長雨が生育に影響したため、例年の3割から5割減収であった。また、E、K3号草地に作付けしたイタリアンライグラスでは広範囲でナズナなど雑草

の侵入があり、生育への影響が見られた。

サイレージ調製用の材料草として、A号草地からトウモロコシ、ソルゴー混播、D2、K1号草地からトウモロコシを収穫した。今年度のサイレージ調製収量（青草換算）は91,960kgと低調な結果となった。原因として、D2、K2号草地では6、7月の天候不順のため播種時期が遅れ、その結果K2号草地ではサイレージにすることが出来ず、青草として利用することとなったことが上げられる。また、今年度もイノシシによる食害がみられたが、電気牧柵の設置によりかなりおさえられた。

放牧草地ではオナモミ、イチビ、ワルナスビ、イグサ、セイタカアワダチソウなどの雑草がみられ、毎年学生実習等で除草作業を行っている。今年度もワルナスビ、イグサについては集中して繁殖している箇所へ一部除草剤散布を行った。効果はみられたが広範な範囲に繁殖しているため、今後、数年かけて除草作業を行う予定である。

(川畑昭洋)

第1表 平成15年津高牧場飼料作物生産量

草地	面積 (a)	作物	利用形態別収量 (kg)				放牧 延頭数	生草換算 収量(kg)	草地当り収量(kg)	
			青刈	乾草	サイレージ	放牧			生草合計 収量	10a当り 平均収量
A	100	トウモロコシ、ソルゴー-混播	5,150		15,990		29,135	34,165	3,417	
		ソルゴー	5,030			5,030				
D2	130	イタリアライグラス	13,280	4,050			33,530	96,225	7,402	
		トウモロコシ	18,340		29,570		62,695			
E	76	イタリアライグラス	6,670	1,215			12,745	39,905	5,251	
		スーダングラス	6,500	1,250			12,750			
		イタリアライグラス、エンハク混播	14,410				14,410			
K1	90	イタリアライグラス	8,740	1,820			17,840	45,900	5,100	
		トウモロコシ	4,440		11,810		28,060			
K2	60	エンハク	1,280	1,370			8,130	23,200	3,867	
		ソルゴー	15,070				15,070			
K3	40	イタリアライグラス		2,340			11,700	23,550	5,888	
		スーダングラス	4,100	1,550			11,850			
小計	496		103,010	13,595	57,370		262,945	262,945	5,301	
B	65	混播牧草				13,320	333	13,320	13,320	2,049
C	120	混播牧草				27,600	690	27,600	27,600	2,300
D1	20	混播牧草				2,440	61	2,440	2,440	1,220
F	104	混播牧草				29,200	730	29,200	29,200	2,808
G	112	混播牧草				29,800	745	29,800	29,800	2,661
H	47	混播牧草				17,200	430	17,200	17,200	3,660
I	185	混播牧草				55,680	1,392	55,680	55,680	3,010
小計	653					175,240	4,381	175,240	175,240	2,684
合計	1,149		103,010	13,595	57,370	175,240	4,381	438,185	438,185	3,814

利用形態別における生草換算収量

青刈	乾草	サイレージ	放牧	合計
103,010	67,975	91,960	175,240	438,185

*サイレージの生草換算はAトウモロコシ、ソルゴー-混播×1.5

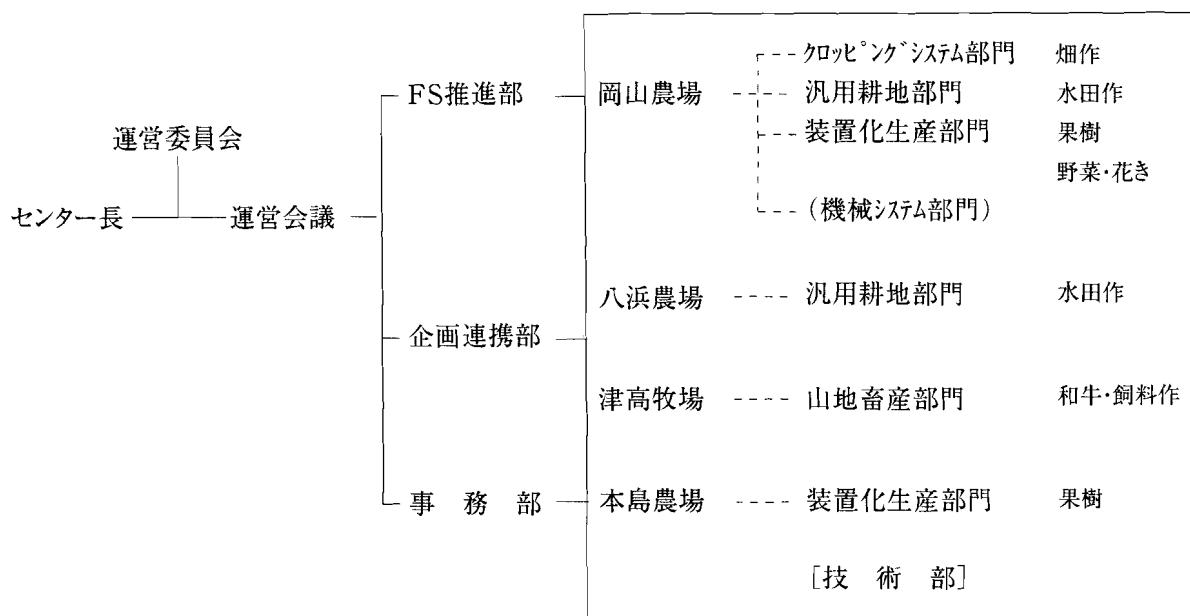
D2号トウモロコシ×1.5、K1号トウモロコシ×2

*乾草の生草換算は×5

2. 事務部

(1) 組織

(1) 機構



(2) 教職員数

区分	教育職(一)	行政職(一)	計	非常勤職員	合計	備考
		技官 事務官				
センター長	1		1		1	併任
主 事	1		1		1	教授
助 教 授	2		2		2	
助 手	1		1		1	
班 長		1	1		1	
主 任		3	3		3	
技 官		4	4		4	
事 務 長		1	1		1	併任
係 長		1	1		1	
主 任		1	1		1	
計	5	11	16		16	
事務補佐員				2	2	
技能補佐員				4	4	
技術補佐員				3	3	
臨時用務員				1	1	
合 計	5	11	16	10	26	

(3) 技術部部門別職員数

部 門	技 官	非常勤職員	合 計	備 考
クロップングシステム	2	1	3	
汎用耕地	1	1	2	
装置化生産				
果樹	2	3	5	
野菜・花き	1	1	2	
山地畜産	2	1	3	
合 計	8	7	15	

(2) 予算及び収入

(1) 予 算 (振替, 事項指定等特殊な予算は除く)

事 項	金 額 (円)
平成15年度	
センター経費	46,509,000
(内訳) 作付積算分	(17,045,000)
収入見込分	(29,464,000)
自動車維持費	404,000
清掃費	311,000
警備委託費	670,000
污水处理施設運営費	287,000
消防設備費	17,000
普通庁費	162,000
合 計	48,360,000

(2) 収 入

平成15年度					(円)
区 分	クロップングシステム	汎用耕地	装置化生産	山地畜産	合 計
果 菜 類	628,770		1,438,710		2,067,480
葉 菜 類	1,183,020		800,730		1,983,750
根 菜 類	1,044,430				1,044,430
花 卉 類	64,850		1,334,950		1,399,800
甘しょ類	769,950				769,950
果 樹			5,913,410		5,913,410
米		11,067,775			11,067,775
牛				11,330,861	11,330,861
合 計	3,691,020	11,067,775	9,487,800	11,330,861	35,577,456

(3) 土地, 建物面積

(1) 土地

農場等名	面積 (㎡)	所在地
岡山農場	91,992	岡山市津島桑の木町 1-62
八浜農場	89,568	玉野市八浜町大崎 1771
本島農場	22,161	香川県丸亀市本島町泊
津高牧場	312,484	岡山市日応寺
合計	516,205	

(4) 営繕工事

(1) 営繕工事 (1件50万円以上)

平成15年度		
工事名	数量 (式)	金額 (円)
津高牧場西部下ダム上流堆積土安定処理工事	1	934,500
津高牧場西部下ダム上流堆積土撤去掘削・運搬工事	1	682,500
津高牧場東谷の沈砂槽堆積土撤去工事	1	882,000
津高牧場東谷の沈砂槽改修工事	1	546,000
津高牧場肥育牛舎・運動場南面流失防止用の擁壁新設工事	1	985,950
津高牧場堆肥舎南面流失防止用の擁壁取設工事	1	568,050

(5) 会議開催状況

(1) 運営委員会

開催月日	協議事項	報告事項
15. 5. 30	1. フィールド科学センターの運営体制について 検討	1. 平成15年度春季全国大学附属農場協議会について 2. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 3. 平成15年度「大学等地域開放事業『大学jrサイエンス&ものづくり』」の実施計画について 4. 津高牧場の環境対策について
16. 3. 16	1. 平成16年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会委員について 承認 2. 平成16年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター併任教員について 承認 3. 平成16年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター専任教員の講座への併任について 承認 4. 平成16年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営会議委員について 承認 5. 平成16年度農学部附属山陽圏フィールド科学センター実習科目について 承認	1. FS推進部・企画連携部平成15年度活動について 2. 平成16年度「大学等地域開放事業『大学jrサイエンス&ものづくり』」の実施計画について 3. 津高牧場の環境整備状況について

(2) 運営会議

開催月日	協議事項	報告事項
15. 4. 9	1. 平成15年度春季全国大学附属農場協議会について センター長、主事の出席について承認 2. フィールド科学センター概要について 承認	1. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 2. 平成15年度ワーキンググループ一覧について 3. 平成15年度フィールド科学センター実習について 4. 山陽圏フィールド科学センター報告について 5. 津高牧場牛舎屋根取設工事について 6. 平成14年度末の備品類整備状況について 7. 技術部会議等について
15. 5. 7	1. センター本館（Ⅳ号館）の1階の西出入口について 実施内容を検討することを承認	1. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会（通知）について 2. 平成15年度フィールド科学センター実習について 3. 米の保管用貯蔵庫について 4. 津高牧場における環境整備について 5. 自動車購入費要求について 6. 技術部会議等について 7. フィールド科学センター報告について 8. フィールド科学センター概要について 9. フィールド科学センター利用申込状況について
15. 6. 4	1. センター本館（Ⅳ号館）出入口の時間外管理について 引き続き検討 2. 津高牧場の環境対策について 承認	1. 平成15年度第1回農学部附属山陽圏フィールド科学センター運営委員会について 2. 平成15年度春季全国大学附属農場協議会について 3. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 4. 平成15年度大学開放特別事業等について

開催月日	協議事項	報告事項
15. 7. 2	1. センター本館（Ⅳ号館）出入口の時間外管理について 承認 2. ゼロックス電子複写機等の契約機種変更について 承認 3. センター利用申込書等の変更について 承認	5. フィールド科学センター利用申込状況について 6. 技術部報告について 1. 夏季集中実習について 2. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 3. 平成16年度大学等地域開放特別事業調について 4. 平成15年度大学開放推進事業経費「大学等地域開放特別事業」について 5. 本島農場泊港境界面よし枝伐採について 6. フィールド科学センター利用申込状況について 7. 技術部報告について 8. センター報告について
15. 9. 3	1. 大学等地域開放特別事業「まきばとうし」の学長裁量経費の要求と実施について 承認 2. 労働安全対策について 注意の徹底を確認	1. 平成15年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会並びに教育研究集会について 2. 平成15年度中国・四国地域大学附属農場協議会について 3. 農家体験実習、農場体験実習、養護学校体験学習及び総合演習について 4. フィールド科学センター利用状況について 5. 技術部報告について 6. 平成14年度生産物販売収入状況について 7. センター報告・概要について
15.10. 1	1. 平成15年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会としての共同研究について 説明	1. 労働安全対策について 2. 津高牧場環境改善対策について 3. 牧場実習、作物集中実習、農家体験実習、養護学校体験学習及び総合演習について

開催月日	協議事項	報告事項
15.11. 5	1. 平成14年度センター経費決算並びに平成15年度当初予算配分（案）について 承認 2. 津高牧場環境改善対策について 承認 3. 平成16年度センター実習シラバスについて 説明	4. 平成16年度農場体験実習実施計画について 5. 平成15年度後期実習開始について 6. 津高牧場畜魂祭について 7. フィールド科学センター利用状況について 8. 技術部報告について 1. 平成15年度全国大学秋季農場協議会について 2. 平成15年度大学等地域開放特別事業「まきばとうし」について 3. 養護学校体験学習及び総合演習について 4. 平成15年度基礎農場実習Ⅲ・Ⅳ（後期）について 5. 津高牧場畜魂祭について 6. フィールド科学センター利用申込状況について 7. 技術部報告について
15.12. 3	1. 平成16年度作付計画について 次回運営会議に諮ることを承認 2. 平成16年度センター関連実習（案）について 承認 3. 技術部研究報告会について 期日を改めて検討し次回運営会議に報告することを承認	1. 平成15年度大学等開放特別事業について 2. 平成15年度生産米の直売結果について 3. 技術部報告について 4. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について
16. 1. 7	1. 平成15年度センター運営経費の追加配分について 承認 2. 平成15年度の機械・設備購入計画について 承認 3. 平成16年度作付計画（案）について 承認 4. 技術部技官体験発表会について 承認 5. 平成16年度施設整備計画要求書について 承認	1. 附属山陽圏フィールド科学センター講演会について 2. 技術部報告について

開催月日	協議事項	報告事項
16. 2. 4	1. 平成16年度センター併任教員について 承認 2. センター概要について 説明	1. 全国大学農場年報第36号原稿について 2. 全国大学附属農場協議会「一農場一アピール」について 3. フィールド科学センター利用申込状況について 4. 技術部報告について
16. 3. 4	1. 平成16年度センター併任教員の依頼について 承認 2. 平成16年度運営会議委員について 一部検討その他承認	1. 全国大学農場年報第36号原稿について 2. 平成16年度春季全国大学附属農場協議会及び平成17年度要望書について 3. 平成16年度フィールド科学センター実習について 4. 技術部体験発表会について 5. 部門別・年度別2月末現在収入状況について 6. 津高牧場の環境整備状況について 7. 技術部報告について

(6) 施設開放状況

施設利用目的, 時期	施設利用者名	期 間	団 体 数 等	参加人数
いもほり (10月3日～11月4日)		1日	39団体 (3,760株)	2,830
	保育園		8 (942株)	532
	幼稚園		7 (1,368株)	755
	親子クラブ		6 (413株)	515
	その他		18 (1,037株)	1,028
教育実習 (10月1日～10月3日)	岡山大学教育学部 附属養護学校	3日	1	8 (延24名)
見学 (5月22日・5月23日)	邑久小学校	2日	1	131 (延262名)
見学 (5月28日)	津島小学校	1日	1	16
見学 (7月4日・8月7日)	京山中学校	2日	1	7 (延14名)
見学 (10月8日)	新日石テクノロジー (株)プロテス事業部	1日	1	8
見学 (10月9日)	甲浦小学校	1日	1	58
見学 (10月27日)	倉敷芸術科学大学	1日		11
見学 (10月29日)	Dr.K.Jinda (タイスコタイ大学)	1日		1
見学 (3月9日)	福岡県農業総合試験場	1日		1
職場体験学習 (2月18日・2月19日)	御南中学校	2日	1	3 (延6名)
地域開放特別事業 (11月8日)	一般市民	1日	8家族	22 幼稚園児等6 小学生7 保護者9